gooddays

Vol. 24

around KANDA NISHIKI - CHO

New Culture & Alternative Lifestyle

2021 SUMMER ISSUE
PRICE 0 YEN

「神田ポートビル」で
ととのい、目覚める

around KANDA NISHIKI - CHO

Special Issue 24 Spring '21

「神田ポートビル」で ととのい、目覚める！

TEXT・Runa Kitai / PHOTO・Yuta Suzuki

“学びのまち”として歴史を紡いできた神田錦町に、新たな街づくりの拠点が誕生しました。その名も、「神田ポートビル」。旅の出発点であり、嵐の日には避難する場所にもなる「港」になぞらえて、都会で生活する人々の「生活の港」のような存在でありたいと、ほぼ日の糸井重里さんによって名付けられました。神田ポートビルは、もともと『この街にはサウナが必要だ！』と立ち上がった前代未聞のプロジェクト。築56年の印刷会社旧社屋をリノベーションしたビル内には、「カルチャー」、「アカデミズム」、「ウェルビーイング」などをテーマに、とてもユニークなテナントが入居しました。地下1階にはサウナ界のゴッドファーザーとも慕われる米田行孝さんが手がけた「サウナラボ」という名の大地が広がり、1階には訪れた人が思い思いの時間を過ごすことのできる、写真館やギャラリー、ショップ、カフェが入った「神田ポート」というコミュニティスペースが。2・3階ではユニークな話が聞ける「ほぼ日の學校」の教室スタジオが開校し、4〜6階には神田で100年以上印刷業を営む「精興社」が入居しています。「學校」で好きなことを学んだら、疲れた身体をサウナで癒して、さっぱり晴れやかな表情を写真に収めてもらったら、神田の街歩きを楽しむ。そんなご褒美の1日を楽しみに、ぜひ訪れてみては？

神田ポートビル
東京都千代田区神田錦町3-9
www.kandaport.jp
オープンカンダ（opkd.jp）

GOOD DAYS STORY Vol. 27

Message from Shigesato Itoi

東京にいながら初めて、「地元のある会社」になれそうな気がしています。

「ほぼ日」は2020年秋に、青山からここ神田錦町へ引っ越してきました。神田にはおいしいラーメンを食べるためにフラッと一人で来ていたのですが、店に向かう道中からなんだかわくわくしていました。店主の顔つきみたいに店があって、それを眺めるのがとても楽しい。儲かるかどうかではなくて、「俺はこうだから」という主観が、どんな個人店にもある。それは店構えだけではなくて、メニューや品揃えにも表れていることだと思います。神田には『人がいる』といううれしさがあるのです。

神田ポートビルの話を写真家の池田さんから聞いて、神田を深く考えるようになったある日、丸の内で働く人たちと会う機会があって、「今度神田に引っ越すかもしれない」と話すと、「神田には私的に飲みに行くことが多くて」と親しげに神田のことを教えてくれました。“私的に”という感覚がとてもいい。古本にしても、楽器にしても、スポーツにしても、オタク的に追求できる一方で、通りすがりのみんながお客さんになれる、そんな街だなと思います。『誰もが参加できる遊び』というのは、ほぼ日が大切にしたいことで、見ていない人のことを感じながら生きることが、本来あるべき仕事に繋がるのではないかと思うのです。神田には胃袋とか、歩く足だとか、誰しもが感覚的に繋がれる快適さが、申し分ないほどありました。

僕らが神田ポートビルに教室スタジオをオープンした「ほぼ日の學校」は、これまでの教育や制度の枠組みにとらわれない、誰しもに開かれた学校です。仮に模型飛行機を作る授業があったとして、それは大学などの教育機関では学べませんよね？ 本来友達同士で教え合うもの。専門家を目指すわけでもないし、資格がほしいわけでもないから試験が必要でもない。誰しもが好きで学ぶことをほぼ日の學校ではやりたいのです。先生も「先生なんてしたことないよ」という人たちにもたくさんお声がけしています。人が話しているのを聞くという行為は、誰しもが純粋に好きなこと。だからこそ、「これはやらないとつまらない！」という思いで始めました。映画や演劇、スポーツ観戦と同じように、『学ぶ』と言うのは“エンターテイメント”。これからの重要なコンテンツになるだろうと思っています。

本社ビルの1階では、ほぼ日グッズを販売するショップ兼ギャラリー「TOBICHI 東京」も営業！

糸井重里　Shigesato Itoi

株式会社ほぼ日 代表取締役社長

コピーライター、作詞や文筆、ゲーム制作など多岐に渡る分野で活躍。1998年には、コラムやインタビューなどあらゆるコンテンツがすべて無料で楽しめるウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」を立ち上げる。その他、「ほぼ日手帳」「カレーの恩返し」といった生活関連商品の開発販売、買い物を中心としたイベント「生活のたのしみ展」の開催なども手がける。

INTERVIEW — 糸井 重里（株式会社ほぼ日 代表取締役社長）

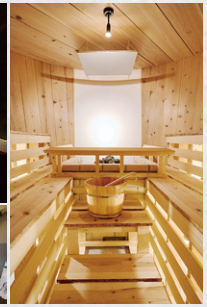
2021年（令和3年6月）

神田ポートビル

ディープな神田の港へ潜入！

サウナ、写真館、學校、印刷会社。
全く異なる分野が集まる神田ポートビルには、
さまざまな目的を持った人が集い、
思いも寄らない出会いが待っています

サウナラボ神田



左上／畳敷きの「IKEサウナ」では、サウナストーブ3つも完備。左下／植物に囲まれた内気浴専用スペースも。下中／サウナ後は1階のサウナカフェへ。右／サウナーの夢である桶に入れる「OKEサウナ」。

サウナ室はセルフロウリュOK！レアなサウナグッズもたくさん販売。

株式会社ウェルビー
米田 行孝さん

都市をサバイブするあなたに教えたい、地下に広がる“神田の森”

65年以上、サウナカルチャーを牽引する株式会社ウェルビーが手がけた「サウナラボ」。サウナ室は、本場フィンランド流のサウナを含む女性2部屋、男性3部屋を完備。水のゆらめきを眺めながら心を整える「IKEサウナ」や、特大の桶でたっぷり汗を流せる「OKEサウナ」、瞑想を目的とした1人用サウナ「から風呂」など新感覚のサウナが楽しめます。また、フィンランドのラップランド地方の外気を模した−25°Cのアイスサウナも体験必須！「サウナは、誰しもが潜在的に秘めている身体感覚を研ぎ澄まし、人も自然の一部だと気づかせてくれる場所。デジタル時代で凝り固まった脳や身体を開放して、野生の呼吸を取り戻してみては？」（米田さん）。※90分の完全予約制。

あかるい写真館

上／「神田ポート」の一角にある写真スタジオ。右上／撮った写真は、別途オプションで台紙や額、フォトアクリルに！右下／池田昌紀さんは“神田っ子”をモデルとしたポートレイト写真集も製作。

サウナと写真を掛け合わせた企画

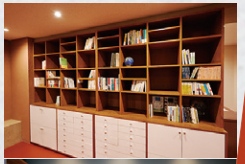
株式会社ゆかい
代表 池田 晶紀さん　マネージャー 小林 知典さん

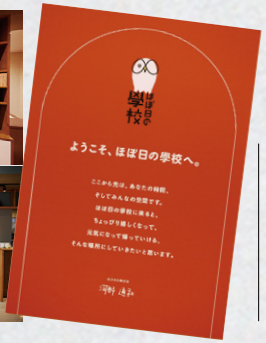
日常に刻まれる、とびっきりの名場面を思い出に。

来館者の暮らしや想いを聞きながら、その日その時にしか撮影できない一瞬をとらえる「あかるい写真館」。神田ポートの発起人である池田晶紀さんを筆頭に5名のフォトグラファーが在籍しています。「写真は撮ることと同じぐらい、選ぶことが大事。だから、ここでは好きなフォトグラファーを選べて、写真データも撮ったほとんどの写真をプレゼント。『共につくる時間』をキーワードに、対話のような時間が持てたらうれしいです」（池田さん）。撮影が終わったら、カフェやショップからなる隣のパブリックスペース「神田ポート」に立ち寄るのもおすすめ。また、スタジオはギャラリーとしても運営しています。※撮影予約は「あかるい写真館」HPにて。

Infiltrate into Kanda Port Building 2-3F

ほぼ日の學校





左上／和田誠さん寄贈の本棚には、これから集まる講師陣の関連書籍か並ぶ予定。左下／1Fの「神田ポート」内ではほぼ日関連グッズも販売！右／床の色にもなっている「金赤」がシンボルカラー！

私も知りたいし、みんなにも伝えたい！熱を帯びた学びの場を提供します。

ほぼ日の学校長
河野　通和さん

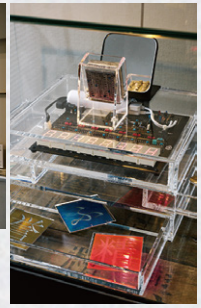
ライブとアプリを組み合わせた、人に出会える新しいエンタメ！

大きく広くなってリニューアル開校した「ほぼ日の學校」。授業は新開発のアプリ（6月下旬リリース予定）で受講することができて、アーカイブにも残せるという新しいスタイルです。好きなことを学ぶ、おもしろそうなことをおもしろがる。一風変わった先生もお招きしながら、大人にとっても、子供にとっても素晴らしい「おたのしみ」をお届けします。

教室スタジオでは、アプリで届ける授業の収録のほか、読書会や勉強会、交流会などリアルに人がつながれる場もご用意！「生身の人間が友達になることも含めて学校の良いところ。神田は面白い街なので、スタジオから飛び出して、同じ授業を観た人が神田のいろんなお店で語り合う会を開くのも面白そうだなと計画しています」（糸井さん）。

Infiltrate into Kanda Port Building 4-6F

精興社



上／色鮮やかな絵本の印刷も精興社の得意分野。右／100周年記念に「アーツ千代田3331」に依頼した、精興社書体のモニュメント。

神田ポートビルの看板

「神田」の文字に「精興社書体」を発見！

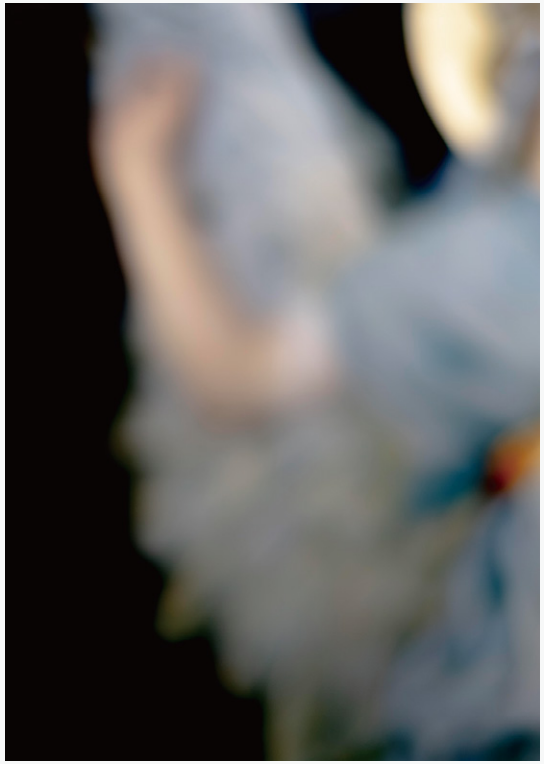
創業108年！「精興社」だから作れる、人の手が通った本。

大正2年に創業し、昭和39年から神田ポートビルのある建物で印刷業を営む「精興社」。活版印刷をルーツに持ち、今では書籍や絵本のオフセット印刷を中心に、数々の名著を手がけています。ここ神田事業所は、出版社や編集プロダクションと密にやりとりをする営業拠点。最新の機器が並ぶフロア内では、熟練の職人たちが校正刷りの色味や赤字を細かくチェック。印刷物への強いこだわりこそが「精興社」らしい粋な仕事を支えます。また、精興社はオリジナルのフォント「精興社書体」を開発したことでも有名。シャープな線質が美しい活字は、「金閣寺」(三島由紀夫著)など、様々な名著で使用されています。

PHOTO WALL Vol 06

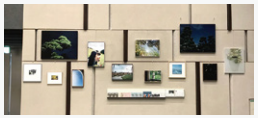
テラススクエアでは、パブリックスペースを活用したフォトエキシビジョンを開催中。写真家がとらえた一瞬、そして街の様子とは。

テラススクエアフォトエキシビション
2021年5月24日（月）～8月20日（金）
開催日は下記 HPにてお知らせします。
https://ensemble-magazine.com



can’t see well when I hug

「can’t see well when I hug」は「抱きしめるとよく見えない」という意味の英文です。今回、私は大切なものを抱き寄せたときにそのものを目で見ることが出来なくなってしまう感覚について作品にしました。ここで指す「抱きしめる」は身体的なことだけではなく、精神的な抱擁も含んでいます。
2ヶ月の展示期間の中でいつしか作品が神保町の街に溶け込み、目に止まらなくなり、展示が終了してから思い出したいと思える、そんな展示になることを願っています。（笠原颯太）



テラススクエア
東京都千代田区神田錦町3-22

笠原颯太 Souta Kasahara

1999年生まれ。武蔵野美術大学在学中。カメラを使用した美しいイメージの作成を基盤に作品を制作。「Photobook JP 2019」を機に仲間と小さな学生レーベル「station books」を立ち上げる。2019年3月には初の写真展「beyond the hill there is a hill」を開催。
Instagram：@souta.kasahara

神田ばとんりれえ

KANDA BUTTON RELAY
・・・第２回・・・

老舗文房具店がおすすめする！神保町でおすすめのコーヒー屋

文房堂

店長 下端由美子さん

豆香房

代表 田村保之さん

「神保町にはたくさんのコーヒー店がありますが、なかでも私の行きつけは文房堂のちょうど南側あたりにある豆香房さんです。とにかくコーヒー愛に溢れたお店で、文房堂のスタッフも皆よく利用しています。日替わりのホットコーヒーは1日3回、2種類ずつ提供されているので、毎日行っても飽きません。まだ飲んだことのない銘柄もたくさんあって、それが通う楽しみでもあります。ぜひ自分が好きな味を探しに訪れてみてください！（下端さん）」

文房堂
明治20年創業の老舗画材店。ブックカバーやしおり、文豪が使っていた復刻版の原稿用紙など、本にまつわるアイテムも数多く揃える。
千代田区神田神保町1-21-1
03-3291-3441
営業時間：10:00-18:30
www.bumpodo.co.jp

「当店はスペシャリティーコーヒーを提供する自家焙煎コーヒー店です。豆は、自ら世界各国にある農園へ足を運び、育てている人や環境をじっくり視察して共感したものを販売しています。当店では「神保町ブレンド」や「錦町ブレンド」など、土地と絡めたコーヒーも提供していて、そのイメージを先日文房堂さんに水彩画で描いていただきました。とても素敵なのでぜひ店頭でチェックしてみてください！（田村さん）」

豆香房 神保町店
常時40種類ほどの豆が手に入る、自家焙煎コーヒー店。人気の日替わりホットは、1日3回、2種類ずつ提供。神保町や水道橋界隈で全4店舗を構える。
千代田区神田神保町1-39-9
03-3518-4123
月～金 7:30-18:30、土 9:00-17:30、日 12:00-17:00
祝日定休

CITY DIRECTORY
神田錦町街歩き名鑑

日本最大級の本の街として著名な神田界隈には、
本作りの最終関門「印刷」の事務所も数多くあります。
今回は、老舗が少ないといわれる印刷業界で108年の歴史を刻む
神田の印刷会社「精興社」について、ご紹介します！

神田 精興社

信頼を刷り続ける、数々の文豪が愛した神田発祥の印刷会社

※リニューアル前の当時のビル

神田ポートビルの4〜6階で印刷業を営む「精興社」は、大正2年、現在の千代田区内神田で創業しました。創業者は白井赫太郎というわずか33歳の青年。創業当時は、社員11名、印刷機械4台の小さな会社でしたが、細部にまでこだわる誠実な仕事ぶりが高く評価され、今日まで多くの出版社や文豪たちから厚い信望を集めてきました。昭和5年頃には、オリジナル書体「精興社書体」を開発。精興社規模の印刷会社であれば、よそから活字を買うことが一般的でしたが、白井赫太郎のオリジナル書体創造への熱い思いと、活字彫刻家・君塚樹石の卓越した技術協力により、3年もの月日も費やしてようやく完成。今日のデジタル書体は、活版印刷の印圧や滲みなども考慮し、精興社書体の持つ美しさと読みやすさを損なわないように工夫されています。精興社書体は、岩波書店、新潮社、筑摩書房、福音館書店、みすず書房、講談社など、大手出版社の数々のベストセラー作品にも起用され、司馬遼太郎や堀江敏幸など幾多の作家を魅了した傑作書体とも評されています。

昭和20年には、戦災で神田の本社工場が焼失した後、現在神田ポートビルとなった社屋（地下1階、地上6階）が完成。今は青梅と朝霞にある印刷工場もかつてはここに存在し、住み込みの寮としても使用されていました。

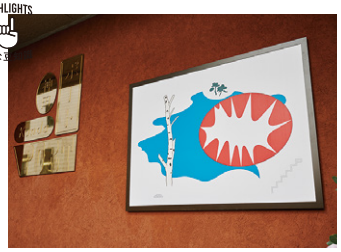
HIGHLIGHTS 粋な豆知識

「精興社書体」はベストセラー作品にも。
平成の名作『ノルウェイの森』(村上春樹著/講談社)では、本文だけでなくカバーの書名題字にも「精興社書体」が起用されている。

HIGHLIGHTS 粋な豆知識

超芸術と評される無用の長物「トマソン」発見！
神田ポートビル外観に残された扉は、もともと精興社の印刷工場が神田事業所にあった当時、印刷機などの搬入出のために作られた扉だそう。

HIGHLIGHTS 粋な豆知識



エントランスのポスター作品も必見！
株式会社ゆかいがプロデュースし、菊地敦己氏がデザインしたポスター作品は、老舗紙屋「竹尾」の紙と「精興社」の印刷によって作られた。

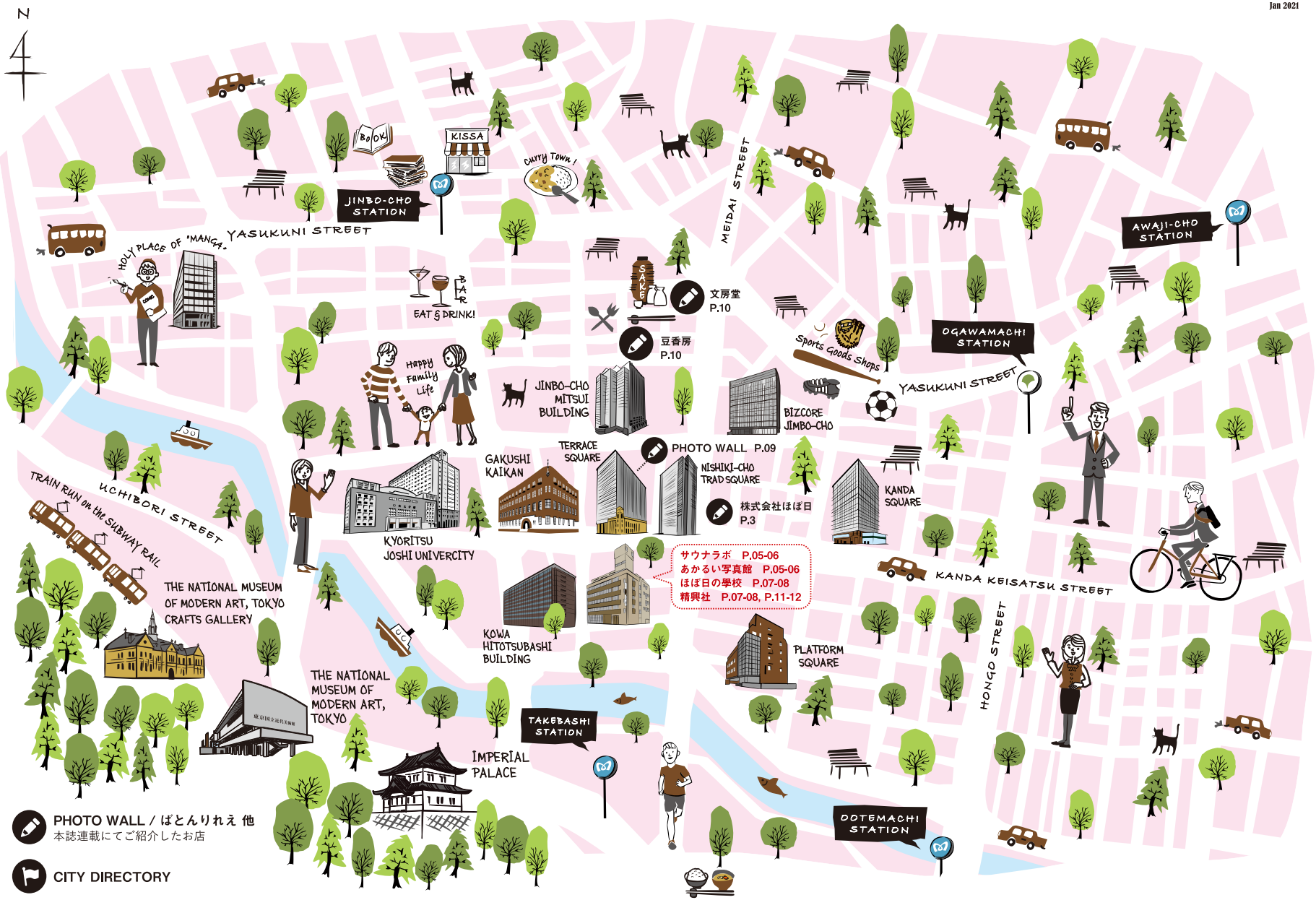
HIGHLIGHTS 粋な豆知識

受け継がれる「精興社」の歴史。
神田ポートビルは神田の今までとこれからを紡ぐ場所。ビルの正面入口にはあえて「精興社」の表札を残している。(安倍能成揮毫)

今と昔を写真で比較

1964年に建てられた精興社社屋は、耐震補強及びリノベーション工事を実施し「神田ポートビル」に！

精興社活字


N
BOOK
KISSA
Curry Town !
JINBO-CHO STATION
YASUKUNI STREET
MEIDAI STREET
AWAJI-CHO STATION
HOLY PLACE OF "MANGA"
BAR
EAT & DRINK!
SAKE
文房堂
P.10
豆香房
P.10
Sports Goods Shops
OGAWAMACHI STATION
YASUKUNI STREET
Happy Family Life
JINBO-CHO MITSUI BUILDING
BIZCORE JIMBO-CHO
TERRACE SQUARE
PHOTO WALL P.09
GAKUSHI KAIKAN
NISHIKI-CHO TRAD SQUARE
株式会社ほぼ日
P.3
KANDA SQUARE
TRAIN RUN on the SUBWAY RAIL
UCHIBORI STREET
KYORITSU JOSHI UNIVERCITY
サウナラボ P.05-06
あかるい写真館 P.05-06
ほぼ日の學校 P.07-08
精興社 P.07-08, P.11-12
KANDA KEISATSU STREET
THE NATIONAL MUSEUM OF MODERN ART, TOKYO CRAFTS GALLERY
KOWA HITOTSUBASHI BUILDING
PLATFORM SQUARE
HONGO STREET
THE NATIONAL MUSEUM OF MODERN ART, TOKYO
TAKEBASHI STATION
IMPERIAL PALACE
OOTEMACHI STATION
PHOTO WALL / ばとんりれえ 他
本誌連載にてご紹介したお店
CITY DIRECTORY

gooddays グッデイズ 2021.6.20 発行 / 発行・編集：グッドモーニングス株式会社 水代 優 www.goodmornings.co.jp

good mornings JAPAN ¥0